

令和2年度 第2回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和3年3月29日（月） 午後1時～3時

場 所： 市役所金剛連絡所 大会議室

委 員：出席者14名

友田 研也、中井 二郎、溝口 俊則、吉村 明、増田 昇、小野 達也、
野村 恭子、廣崎 祥子、馬來 秀樹、鳶岡 智基、高橋 大河、佐々木 直樹、
三崎 信顕、森木 和幸

欠席者3名

山田 泰弘、木全 剛司、中西 光司

事務局：5名 【富田林市】

仲野 仁人、山中 敬之、坂口 公一、加茂 武、荒木 亮典

コンサルタント：1名 【特定非営利活動法人きんきうえぶ】

寺田 誠

会長が認める関係者：3名

傍 聴 人：0名

会議次第：1. 開会

2. 議事

(1) 金剛地区再生指針に基づくソフト面の取組について（令和2年度）

(2) 金剛地区まちづくり会議（全体会）のあり方について

(3) 「金剛地区の施設等再整備のあり方検討調査業務」の進捗について

(4) 「金剛地区魅力向上拠点 “^{インフィニット} ∞ KON ROOM”」の開設について

(5) その他

3. その他

開催形態：公開

会議録：全文筆記

1. 開会

(事務局：仲野)

- ・開会、議事進行にかかる留意事項の確認等
- ・資料の確認
- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることを報告。

(増田会長)

皆さんこんにちは。衝立があると、いつもとちょっと雰囲気違って、割と距離感が出ますね、一枚の衝立で。距離感なしに、議論を進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。次第には、先ほど、事務局からご説明いただいたように、議事が1から5までござひます。ちょっと、事務局のサポートをしていただひている寺田さんが、少しトラブルで遅れるということでござひますので、議事3『「金剛地区の施設等再整備のあり方検討調査業務」の進捗について』からスタートしたいということでござひますので、事務局の方から、まず3番の報告をいただひて、意見交換したいと思ひます。よろしくお願ひします。

2. 議事

(3)「金剛地区の施設等再整備のあり方検討調査業務」の進捗について

(事務局：坂口)

- ・資料3について説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。調査を進めていた施設等再整備のあり方について、取りまとめが進みつつあるという報告をいただきました。皆様方からご意見をいただきたいのは、かなり色々な要望で、色々なハード整備のイメージは整っているんですけども、どれから先行して手を付けたら良いかというような辺りにですね、少しご意見をいただければと思ひますけれども。何かござひますでしょうか、いかがでしょうか。溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

今事務局の方から説明がありましたように、どれから何を進めていくのか、費用の関係等、色々あるとは思ひますが、一点、この協議会の中では紹介していなかったのですが、金剛中央公園、これについては、公園部会の中でも紹介しまして、公園部会の共有提案というかたちになっております、中央公園の総合的な改修案、これについては、2月17日に、初めて市長に直接プレゼンテーションしました。これについては、部会の方でも報告しましたように、費用については、あくまでも公共施設を作っていくっていう考え方で、国の補助金をもらおうと。ですから、私どもの提案としては、PFI方式でやったらどうかと。そうすれば、国の補助金が相当おるといふかたちで、そうすれば、いつまでも手をこまねいているんじゃないくて、手を付けていける段階にあると、素人ながら考えているところです。ですから、それを是非、来年度の協議会の中にも大きなテーマとして推進していくっていう立場で、是非捉えていただきたいなと思ひております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい、友田委員どうぞ。

(友田委員)

今溝口さんからご意見ありましたけども、金剛地区の特徴として、やっぱり都市基盤がきっちり出来てるってところで、そのメインっていうと、やっぱり寺池公園であったり、中央公園、そして、ふれあい大通り、こういうのがあるんですけども。特にやはり色々なしがらみとか、交通規制とか、そういったことを考えると、中央公園であったり、寺池公園ってというのが、まずは使いやすいのかなと。そして金剛地区の中で、やはり中央公園といいますのが、スポーツホールがあり、それが建て替え時期を迎えているということ。そして、そこに隣接して大きなグラウンドがあると。そういったものを一体的に使うことによって、やっぱりこれから、SDGs 未来都市も、富田林市は取っていますけども、そこで健康がテーマになっています。そのスポーツとか健康とかを軸に、やっぱり若者も呼び込むようなコンセプトを立ち上げて、そこを拠点としたり、シンボルとして整備していくってことがね、割と有効じゃないかなとは思っています。たしかに色々な調整も要ると思いますけども、やはりきっちりとコンセプトを作って、若者を呼ぶようなPRをし、発信をして、整備するということが良いかなと思います。

(増田会長)

分かりました。ありがとうございます。他いかがでしょうかね。はい、中井委員どうぞ。

(中井副会長)

銀座街のピュア跡地ですね。ちょっと意見だけ述べさしてもらいたいと思います。後ほど紹介あると思うんですけども、私どもは「わっくカフェ」というものを主宰しております。そのときに見ておりますと、つくった趣旨として、人を寄せるというのが一つの趣旨なんですけども、ピュア金剛跡というのが、一番の障害になっています。

そこに建て替えてハードものが建つのであれば、人寄せというインパクトが大きいと思うんですけども、それは非常にURさんの方で難しいというふうな話があれば、今、市から提案があったような広場にしてしまっただけで、管理するのはだれか主体が要るでしょうから。そういう主体を住民でやれというなら住民でやるという組織を立ち上げれば良いかなと。そういうふうな考え方を持っております。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうかね。はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

僕としては、今色々聞いていて、やっぱり中央公園と寺池公園の整備、これがまず第1というなら、二本立てで一番トップに行くかなっていうふうに思っております。中央公園の方はやっぱり、行政的な協力がなければ絶対出来ないの、それが中心かなと。寺池公園の方については、友田委

員なんかが非常に中心になってやっていただいて、地域の方も非常に活動をしておられるので、地域の力でやっていくのが良いかなと。ピュア金剛跡については、これを見てましたら、やっぱりなかなか難しいなということではありますが、僕のイメージとしてですけれども、中央公園がスポーツ的なものであるとすれば、こちらの方は文化的なものということをやっぱり中心としてやって、ここで余剰スペースについては、無理だろうというような、効果は薄いと書いてありますが、僕はそういうふうには余り思っていないくて、文化的なものがあれば、必ずそういうところに若い人たちとか、必ず集まってくると思ってますので、特に自習室的なものとか、きちっとしたものがあれば、若い子、生徒達なんかも集まってくるものですから、そこはこれからの、ちょっと長い課題かなと思ってますが、ぜひ考えていってほしいと思っております。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。よろしいでしょうかね。

今の話を少しまとめると、やはりインフラ施設としての、金剛中央公園と寺池公園、これは先行して整備していけるだろうと。特に、寺池公園の方は、どちらかというと住民主導での活動を、より具体化していくというふうなかたちからスタートし、中央公園の方は、あそこのスポーツホールの建て替えも含めて、ある意味行政的なところで主導しながら、こことも議論をして、多機能型といいますか、今、若者っていう話が出たり、或いは、子育て支援という話が出たり、そういうかたちで多機能型へどう展開していけるかというところを先行的に。あと、駅前の方は余りで出なくて、やはり一番難しそうだと。ピュア金剛の跡地については、私なんかでも、ニュータウンの再生で色々な諸外国を見ていると、やはり郊外なんかのニュータウンでも、近隣商業施設、ハードの整備をするのは非常に大変ですから、とりあえずオープンにして、屋台村みたいなところからスタートする、再生していくみたいな。覆い屋だけ作っておいてですね、そういうふうなかたちで、少しオープンスペースを中心というふうなこと。ゆくゆくはやはり、今、吉村さんが仰ったような、文化性というのが、やっぱり金剛の中でも弱いんですから。その辺りはやっぱり、ゆくゆくは文化というようなことをどう根付かせていくのか、ということを考える拠点的なところへ育っていけば、そんなご意見いただいたのかなと思うんですけど、よろしいでしょうかね。はい、ありがとうございます。

それでは、この議題については、これくらいにして、4番に行かずに、寺田さんが来られたので、議題1からにした方が良くと思いますので、1に戻りましょうか。議題1と2を連続で説明いただいて、意見交換したいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

(事務局：坂口)

先に事務局の方から順番に取組の方を説明させていただくんですけども、先ほどのハード整備に至るまでの前段階としては、金剛地区再生指針に基づき、住民主体のソフト的な取組の積み上げというものから始まって、それを後押しするハード整備等が必要だという議論の繋がりがああるので、その前段階となるソフト的な取組、今年度はコロナ禍、感染に気を付けながら、何とか少しずつ進めてきたんですけども、令和2年度にやってきた取組の報告、それと、その活動母体となっている「まちづくり会議」という会議の進め方、あり方等について、色々な悩みもありますので、その辺も含めて報告させていただくとともに、相談の方させていただきたいと思っておりますので、

どうぞよろしくお願ひいたします。

(1) 金剛地区再生指針に基づくソフト面の取組について（令和2年度）

（事務局：寺田）

・資料1について説明（※「総合まちづくり部会」については、友田委員、「寺池台小学校区防災訓練」については、事務局：荒木より説明）。

（増田会長）

議事2に行くのではなくて、議事4も少し関連しますので、金剛地区魅力向上拠点、これもちょっと説明いただけますかね。

(4) 「金剛地区魅力向上拠点 “^{インフィニット} ∞ ^{コン} KON ^{ルーム} ROOM”」の開設について

（事務局：加茂）

資料4について説明。

（増田会長）

はい、ありがとうございます。一旦、ここで切りましょう。1つは、ソフト面の取組について、状況をご説明いただいたものと、金剛地区魅力向上拠点についてもご説明いただきましたので、何か補足、或いはお気づきの点があれば、少し意見交換をしたいと思いますけどいかがでしょうか。魅力向上拠点と、まちづくり会議でされているわっくカフェの仕組みと、この辺りダブるところと、連携のあり方みたいなやつと、両方あるんだらうと思うんですけども、その辺についても、何かご意見ございますでしょうか。いかがでしょうか、はい。

（中井副会長）

今、話がありました魅力向上拠点と、我々がやっております、わっくカフェ、同じような目的を実は持っているんですね。そのため、本来、私どもがやろうとしたときに、この拠点が行われてる場所が借りられるということが分かっていたら、こちらを借りるという手も実はあったんです。ところが、それが市の方から提案がなくて、やむを得ず、今のスペースを借りて、わっくカフェをやって、拠点・居場所づくりを進めてきたと。そういう意味では、中身的にですね、我々の作業を邪魔したようなイメージが出て来てしまっていると。これはもう、逆に拠点がこう活性化していくと、我々の業務と、我々の考えてる中身と完全にダブってきまして、競争・競合関係になってくる。その辺を、市はどう考えているのかっていうのは、実は、我々の中でも色々意見としてはあって、その辺の市のスタンスっていうのは、明確じゃない。その辺を明確にしておいてほしいっていうのは、わっくカフェを運営している我々のサイドの話です。あと、今までもずっと住民主体の組織を作りたいという話はあると思うんですけども、本来、卵が先か鶏が先かという話と一緒になんですけども、組織を作らないと市は動かないという言い方を、今現在、市の方でやっていて、組織を住民が作るというのは非常に大変なんです。それを前提条件とされると、色々なソフトのプログラム

というのは動かない。この辺をもう少し考えていただきたいなど。我々の場合は、URさんとの賃貸借契約があったので、やむを得ず団体を作りましたが、本来は個人で貸していただいたら、個人でやれるところからやっていくというスタンスが取れたはずなんです。8人のメンバーで作りましたが、8人に対して非常に負担が掛かるわけです。個人の財産を出してやっていくというかたちなので、それを団体が出来ないという運営をさせないというやり方は、どうもまずいなというふうに私は考えてます。補助金との関係とかがあって、団体を作らないと動けないというのも分かるんですけども、その辺の運営の仕方をもっと、柔軟に運営する方法があるのではないかなという考え方を持っています。

(増田会長)

何か市の方は、今の話に対して、コメントいかがでしょう。

(事務局：坂口)

場所についてはですね、URさんから2つの場所が、一つ市の拠点の方については、URさんから、何か使う方法がないかということで、お話をいただいたんですけども、当然、わっくの話も並行して動いていたので、わっくにも紹介出来るかなということで、内部で検討していたんですけども、ちょっとそのとき、本来わっくがやっている場所での話が動いていたということと、今うちの方で借りている拠点の条件としては、期限が2年間しかないということ、プラス、居抜きでそのまま内装の改装が出来ないということで、キッチンとか、そういった設備が作れないということで、そういう意味で、申し訳ないんですけど調整なしで、こちらの方で拠点を作ってしまったんですけども、実質わっくの目的には使えない施設だったということが理由になっております。

(増田会長)

例えば、どちらも会議室なり使い方が満杯になったら、お互いに連携し合うみたいなことは可能なんじゃないかな。

(事務局：坂口)

連携のあり方については非常に課題で、我々としては、お茶を出したりご飯を出したりとか、被らないようにというのは留意してやっています。ですので、コワーキングとか自習とか、飲食等はなしで、気軽に入れる場というスタンスでやっています。ちょっと今後、連携して機能を補完し合うようなかたちを生み出していければ良いなというふうには考えております。

(増田会長)

何か、わっくカフェの方では、会議をしたいような方には、少しこちらの拠点の方を紹介出来るとか、何か連携出来ると上手いかなと思うんですけどね。

(中井副会長)

実際、我々運営を始めて1ヶ月なんですけども、どうしてもオーナーさんが入って、食堂なりカ

フェナリを中心にやられるので、当初目的としていたような、自由に入って自由にわいわい過ごしてもらおうというふうなスタンスが、なかなか今現在取れてなくて、一般の人が通ったときに、カフェなので、入ったらものを買わないといけないだろうというような感覚にどんどん陥って、そういう意味では自由な使い方、気楽に寄れる居場所という当初の趣旨からは、ちょっとずれ気味ではあるんです。ただ、これは今後、運営の仕方だろうと思ってます。オーナーの方には、入ってきてもらった人には、注文しなくても良いですよ。中に、先ほどあったボックスがありますので、それを見てもらって、そのまま買わなくても、見て出て行ってもらうというかたちの運営で良いので、その人たちの入場を拒むなということ、オーナーさんに言ってるんですけど。ただ、先ほどあったように、予約制で満杯になってしまうというようなことがあって、そうなると、そういう運営の仕方は出来ない。その辺、今現在、ネックかなというふうに思ってます。

(増田会長)

ここに来る前に、こちらの魅力向上拠点もを見せていただいたんですけど、同じようで、やっぱり気軽に入って行く、何のために気軽に入って行くのかっていう話と、入るときには少しドアとかがあって、ちょっとネックになっていると。極端なことを言うと、そこでちょっと話をしていたんですけど、何か黒板か、情報提供板みたいなやつがあって、こっち側のわっくか、若しくは魅力向上拠点に行ったら、市民さんが、どこでどんなプログラムが今日動いているのか見えるような黒板があったら、少し立ち寄って、富田林市全体でも良いと思うんですけど、市民さんが市民にサービスしているようなプログラムが、どこでどんなふうに展開されているのかっていうのが一目で見えるようなカレンダーがあると立ち寄る意味が出て来たりとか。皆さんの活動をしているチラシの配架をするような場所が少しあったりとか。そんなことでも良いし、或いはデジタルサイネージみたいなやつを置いて、少し情報が発信されているような、そういう仕掛けもあっても良いのかなというようなことは、ちょっと感じますけどね。他何かいかがでしょうか。はい。

(三崎委員)

すみません、大阪府から来ています、三崎です。最初の資料3とも関連して、先ほど中井さんがご懸念されていたこともちょっと関連するんですけど、資料3のときにも思ったんですけど、例えば、コワーキングスペースとか、先ほどのシェアオフィスみたいなものが、例えば中央公園とか、お隣のピュア金剛跡とか、色々出ているっていう話があって、先ほど、友田さんの方から、中央公園のところで、私、前回ここに来たときに、凄いい坂を上って、凄いい階段を降りて、ほとんどぐちゃぐちゃなところを靴が濡れながら行った記憶があって、流石にここを拠点とするのが本当に良いのかどうかっていうのは、ちょっと話を聞いていて、友田さんが提案いただいたように、3階建てみたいな段差をやるやり方っていうのは凄く良いんですけど、相当コストが掛かるんですね。たぶんそれは、カフェとか、そういうものでは到底成り立たなくて、かつ市の施設、公園施設として、あれを作るっていうのも、相当大変だと思ってることを考えると、先ほどのピュア金剛跡みたいところで更地にしてっていう話もありますけど、やっぱり立地的に言うと、先ほど中井委員がやられているカフェのところとか、先ほどのご紹介あったところとかですね、やっぱりこの辺り。ここも実は、駅から凄いい坂で、けっこう、高齢者の方とか、若い方でも、たぶんしんどいと思うんですけ

ど、辛うじて、やっぱりこの辺を中心として、何かやっぴいかざるを得ない中で、そこを補完するかたちで、中央公園のスポーツ施設ゾーンとか、なんかちょっとそういうふうには考えないと、先ほどの中井さんの議論じゃないですけど、色々プランニングで、総花的にやっぴいて、結局ダブって誰も調整役はいなくて、どうしようもなくなるので、やっぱりそこは、何かこういう協議会なり検討会みたいなところで、大体ここはこういう方向でいきましょうというのは、やっぱり調整会議みたいなものをしっかりやらないと、結局同じことが繰り返されるような感じがしてるので、是非、それぞれ、やっぱり皆さん、特に住民の方々が中心になるっていうことは、ほとんどボランティアで、お仕事抱えながらやってらっしゃるんで、やっぱりそういう無駄なことがないような、そのコントロール役っていうのは、是非、市さんとかやってほしいなと思います。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他何かご意見ございましたら、いかがでしょう。小野先生、何かございますかね。

(小野委員)

はい、小野です。今の、その前も聞きながらですね、ちょっとまだこちらの拠点の方の活用度合いが少ない、わっくさんの方は、凄く入ってるって話だったんですけど。その辺り含めて、特になんていうか、自習スペースみたいなものをもっとやってほしいなという辺りは、若い世代を特に中心に、そういう世代を巻き込むようなかたちが、やっぱりアイデアがあるかなと思っていて。いくつか他のところを知っている、少ないところの知識で言えば、やっぱりオープンなんですね、誰が来ても良いよっていうオープンで、そこでけっこう自由に、みんな学び合ってるっていう雰囲気が出せると、非常に利用率が伸びてるっていうのは体感してる場所です。

それともう一つはやっぱり、先ほどこれは、増田先生仰っていた、地域の情報発信。何か、そこに行くとなんか色々なものがあって、どういうことがあるかっていうのの分かり合えるような場になっていくと、例えばそのまちづくりをどうやってきたかみたいな、そういうアーカイブでも良いですから、そういうものを作ったり、或いは他の地域でどんなことやってるかっていうようなアイデアが出来るような、そういうようなコーナーなんかは、是非どちらかにこういうふうにしていくと、みんなアイデアを出し合いながら、じゃあ次はどんなふうにしていったら良いんだろうとか、行政との情報交換はどうしたら良いんだろうとか、その辺りは重要な場所ですので、少し丁寧にやっていく必要があるなど。ただ、ちょっと引いて見てみると、この間の取組は、かなりまとまって色々なかたちで整備されてきているっていうのは、やっぱり一方ではあるんじゃないかと思います。数年前の段階だと、どうなっていくんだろうというところから、今アイデアは色々出て来て、具体的にはわっくなんか動いてきてる段階になってきてますから、ここを本当に丁寧にやるということで、この先、5年10年、継続的なものが出来ていくということで、そこの上では、先ほど出て来たように、やっぱり担い手の問題ですね、圧倒的にね。その担い手の問題っていうのは常にどこのまちづくりでもそうなんですけれども、おそらく皆さんも若い担い手が入ってほしいということもあると思いますし、その辺りを巻き込みながら進めていくっていうことを一番基本にしながらかけている段階に、いよいよなってきたっていうのが感想でございます。以上です。

(増田会長)

ありがとうございます。たぶん担い手の中では当日汗かきましようねとか、時間も体力も提供しますという人は、けっこういてるんです。事前にそのマネージャーというんですかね、事前に調整をして、その日を取り仕切る、マネージャー的な役割の人はやっぱりなかなか不足してはいてですね、その人たちをどう発見したり、どう発掘してきたり、どう育てていけるのかみたいな話が非常に重要で、なかなかその日に兵隊で汗かきますよという、善意の人っていっぱいいらっしゃるんですね。ところが、その前の下準備っていうんですかね、或いはそれと当日の仕切りみたいな、そういう辺りの人材というのはなかなか大変なので、その辺は上手く発掘するっていう話と、どうやってちょっと興味のある若い世代に、そういうマネージャー的なところへ育てていただけるのかというような、そんなことも大事なかなと思いますけどね。他いかがでしょう。よろしいでしょうかね。

少し今日、内閣府から2人お見えになってて、少し今日、この住民活動として、議事1から5まで、プラス、市の魅力向上拠点、こんな活動で少し感想的な話をいただければと思うんですけども、少しコメントいただければと思いますけれども。

(内閣府1)

オブザーバーとして参加させていただいております。今年度、富田林市に対するハンズオン支援というかたちで関わらせていただいております。本日聞いた話です、オブザーバーですので、あくまでもコメントということにはなるんですが、今話があったように、担い手の話、どこも困っていると思います。わっくカフェさんとか、あと情報発信のところや、マルシェのところもアイデアとして出ていたのが、参加者だとか住民の方を、担い手としてどう巻き込んでいくか。たぶん担い手に、そもそもなろうと思っている方って、実際には限られていると思うので、どういうふうに、何となくふらっと参加した方が担い手になるかっていう導線をイメージするのがいいと思いました。さっき先生のアイデアにあったように、例えば、若い人が自習に来て、そこでその情報に黒板で触れると、自分もこうなってみようかなっていう、情報だとか、関心の導線みたいなものが、たぶんより具体化出来ると、本当にそういう方が継続的に関わってくるのかなと思いました。あと、ハード整備のところもですね、たぶん特定の目的で、色々な施設を作ってしまうと、重複だったり、ニーズが変わったときに色々難しいかなと思います。これも海外も含めて色々な自治体で、例えば道を使いながら、仮設のベンチとか仮設のテーブルとかを使いながら、最終的にどうするか決めていく。なので最初からこの目的で使うというよりは、利用者の方によって、利用目的を自由に決められる、変えられるっていうのを繰り返しながら、最終的にどうしていくかを定めるっていう方法もあるのかなって思いました。すべての経緯とかを色々把握しているわけではないのですが、本日のお話を伺ったコメントは、以上2点になります。

ありがとうございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。いかがでしょうかね。

(内閣府2)

本日お話を聞いておりました、公園に色々な機能を持たせたりですとか、インフィニットコン
ルームであったり、わっくカフェさんとか、色々な活動をされているということではあったんです
けれども、今も話があったように、色々な機能を持たせる、1つのものに対して、1つの用途を定
めるだけではなくて、色々なやり方を考えながらやっていくということが非常に大事なのかなと
いうふうに、1つ思いました。あとは、公園の利用率が低いですとか、そういったことも、色々な
住民の方の用途の意識といいますか、公園って何しに行くところなのかなって考えたときに、運動
しないから公園に行かなくていいやとか、散歩しないから公園に行かないとかっていうのもあると
思います。この商店街も、隣りにショッピングモールがあったりとかして、買い物に行く場所とい
う認識がある中で、そういうカフェが出来たりとか、インフィニットコンルームのような、あくま
でも自習ですとか、コワーキングスペースとか、小野先生の話にもあったように、行けば何かある
というか、ご飯を食べられるよとか、色々な情報を得られますよとか、そういった、行けば何かあ
るという期待感と言いますか、こういうものってソフトの取組なので、すぐに効果が出るものでは
ないと思うので、徐々に作り上げていくのが非常に大事だと思います。今後、こういった活動を続
けて、住民の意識というか、そういったものを変えていければ良いのではないかと。私も本日来た
ばかりですが、そういったふうに感想を持ちました。引き続き、富田林市さんのハンズオン支援に
ついては、来年以降も続けていくものですので、我々としても色々な情報ですとか、事例ですとか、
そういったものを調べた上で、引き続き、ハンズオン支援の方を続けていきたいなと思っておま
すので、今後とも引き続きよろしく願いいたします。

(増田会長)

はい。どうもありがとうございました。急に振りまして申し訳ございませんでした。ありがとう
ございます。

あと2つ議題が残っていますので、少し前に進めさせていただいて良いでしょうかね。

1つはずっとこれまで課題になっておりました、まちづくり会議全体会のあり方について、これは
先ほど、三崎委員からの、どこかで調整機能が要るんじゃないかみたいな話にも通じるかもしれな
いですね、全体会議のあり方みたいな話、住民主導型でどれぐらいやっていけるのかみたいなこと
を少しご提案いただければ、或いは課題を整理いただければ、どうぞ。

(2) 金剛地区まちづくり会議（全体会）のあり方について

(事務局：寺田)

資料2について説明。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。3月20日にも意見交換していただいたということですがけれども、
何かございますでしょうか。はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

会議のあり方、或いは進め方について、僕は市とやっぱり住民が協働でやっていく方向っていうのが一番良いだろうというふうに思っています。将来的に住民が中心になってというのは、それはそうですけれども、やっぱり市が関わらなければならないプロジェクトもありますので、これはやっぱり両方の意見なりを聞いていくべきだと。将来的にはやっぱり二人三脚的なイメージでやっていくべきだと思ってるんですけども。

実は、この間随分混乱がありまして、先ほどの議論の中でも、市のスタッフが増えたとか、市との連携が上手く出来てないと、コワーキングスペースとわっくカフェですか。それが具体的な問題としてありましたが、実はこの間、色々な部会で、色々計画を進めて、随分色々な活動が進んだなと僕も実感してるんですけども。ちょっとこの間ひっくり返るような、僕の頭が混乱する事態がありまして、何かと言いますと、金剛地区の拠点であるこの場所ですが、ここの小ホールを無くすということが突然決まりましたね、3月4日に僕は聞いて、僕実はそこで学習会を7年間以上やってたので、突然、3月10日にもう無くすという決定がされるという、市の委員会が開かれると聞いて、びっくりしましてね。実は全部の議員さんのところを回ったんです。聞いたら、市の方が突然出して来たんだと。2月の終わりに出して来たということを知られて、市の方が、突然それを出してこられたようです。議員さんも、ほとんど知らなかった。僕としては非常に困るので、それを是非、今回3月10日に決定するのはやめて、今回は保留してくださいということを行ったんです。何回も聞かれたのは、住民さんの意見は聞いてないんですかと。僕らは一切聞かれてなかったの。どの議員さんにも、そのように聞かれましてね。僕は知りませんということでは、答えはなかったんですけども。結局それが3月10日に、決まってしまって、3月24日に廃止ということが、市の決定として出された。ところが、ここの場所を考えると、大ホールと小ホールは絶対に頭にあるものですから、しかも僕の活動が止まってしまうということですから、かなり頭混乱したんですけども、やっぱりそのことを考えてみますと、さっきから出ている、市民と市との調整と言いますかね、これがやっぱりあまり上手く行ってないと言いますか、逆に言えば、市の方が僕らの言っただけでまちづくり会議の話を、あまり認識しておられないんじゃないか。もう一方で、市議会の方が決定いたしますから、議員さんが良く知っていただかなければならないんですけども、その辺りも話がされていなくて、知らない方がほとんどで、そういう点で、僕びっくりしましたが、前日に色々行って、全然僕は話を聞かされていませんということを言いましたが、議員さんの中では議論が全くなくて、ほとんど人1人だけ一生懸命に議論をされてましたが、裁決のときになったら、多数決であつという間に決まってしまうという、そういう状況もありましたので、まちづくり会議の活動を、市民の方々にもっと広げていかなければいけないなということもありますが、もう一方で、議員、或いは市の行政中心部分ですね、その辺りの方々が、しっかりと状況を掴んでいただきたいし、住民との話し合いというのを、僕らの話し合いの中でも、周りの自治会での話し合いなんかを聞かないといけないということで進めてるわけですから、住民の意見をもっと中心に考えてやっていただかないと、ここで色々なことを考えてやってもね、次になったらひっくり返っていたとかいう、そういう心配が常につきまわってまして、それが今回、如実に出たわけですよ。そういう点で、まちづくり会議を大事にするんだということは、市長さんもたしか、市政方針ですね、市民と行政と一緒に進むことが出来れば、富田林市は絶対に良いまちになりますという、言っておられるわけですから、

やっぱり意見をきっちり聞いてもらいたい。実際僕は、この協議会は、市長さんの委嘱を受けて委員をやっていますが、残念ながらそういう、小ホールを無くすということについては一切打診がなかったし、利用者としても打診がなかったの、それは市との信頼の関係だと思しますので、やっぱりイエローカードだと思ってるんです。イエローカードを2回やるとレッドカードですからね。市はやっぱりそこら辺を、きっちり住民の意見を聞く。こういう方向はどうか、アイデアを聞くという立場を、是非、今回のことを1つの反省材料にさせていただきたいと僕は思ってるわけです。その方向でぜひ、今後は一緒に進めていく。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。市の方は何か答弁ありますか。特にないですか。耳の痛い話で。

(事務局：坂口)

この件につきましては本当に調整なく、利用者の声も聴かずにやったこと、非常に申し訳ないと思ってるんですけども。廃止なんですけども、相談機能・相談所が出来るっていうことで、どちらも大切な移動ということで、内部で非常に苦労して検討した結果なので、今後、またそんなことがないように、色々な取り決めをする際には、協議会も含め、まちづくり会議他、利用者の皆さんの声を伺いながら、進めていくべきと考えてますので、よろしく願いいたします。

(増田会長)

はい。吉村さん続きですかね、違う話やったら良いんですよ。

(吉村委員)

一緒なんですけどね、そうであればあるほど、市民のアイデアを聞いてほしいと。色々出て来ますよね。友田さんなんか、公園なんか、びっくりするようなアイデアをいっぱい出してくれてますので。市民のアイデアというのは、非常にやっぱり柔軟な面がありますので、そこが今回無視されたというのは、非常に残念でございます。

(増田会長)

はい、分かりました。はい、溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

今のことに関連するのですが、吉村委員が言われたことに補足することはほとんどありません。ただ、それに対して、行政の意見として、坂口さんが行政の全体を背負ったような発言をされた。この問題は、本議会にいきなり出されて、一切居住者には、事前の報告も説明もない。市長の施政方針の中に、このことは出てるわけです。それで、その施政方針というのは、議会で議案に出される内容、そこに、この廃止が提案されていると。その廃止の背景には、私たちがまちづくりの中で色々福祉の問題も含めて、お年寄りがどのように生活出来る場を提供していくかと。こういう観点で、色々論議をしてきた。その1つが、いわゆるそのけあばる、これらの地域包括っていうも

のを、なし崩しにしてしまうというような内容になっているんですよ。ですから、福祉を大事にしようと言いながら、一方でね、地域包括のシステムを無下にしてしまうと、そういう中での一つの結果として、せっかく1階にあるものを2階に持ってくると。そのために、この小ホールは潰される。そういう点ではね、やはり住民無視の議会運営ということになってしまったんですよ。ですから、今、吉村委員が7年間、ここで学習会をやってきた、そういうところが、他にも利用者はけっこうあるわけですけど、それがいきなりなくなってしまうという点では、やはり我々まちづくりの観点で色々やっている人たちの努力が報われるような方向に、今後行政としては、対応していただきたいと思いますというふうに強く思います。

(増田会長)

はい、分かりました。ありがとうございます。やはり信頼関係というのは非常に重要で、しかも市民主導のまちづくりのときに、よく市民主導になると、行政は黒子ですみたいな話がよく誤解されていられるんですね。やっぱり共生というのは、役割が違って、お互いの存在を認めて、お互いに連携するというのは、市民と行政との共生ですね。したがって、黒子になって、水面下に逃げるのではなくて、やはり両輪と言いますか、そういうかたちで信頼関係を作って、前に進んで行くと言うのが、これよく住民主体と言ったときに、よく行政の方が誤解をされて、黒子になるのが行政の役割やみみたいなことの誤解があるので、そうではなくて、今日色々な意見をいただいていますように、両輪で連携しながら展開していくっていうのは、非常に重要な視点でご指摘をいただいておりますので、そういう方向でこれからも進んでいただければというふうに思います。よろしいでしょうかね。ありがとうございます。

他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。もう1点、議事として「その他」がございますので、ご報告をいただいと。

(5) その他

(事務局：坂口)

資料5について説明。

(事務局：坂口)

それともう1点、今日は木全委員が出席する予定だったんですけども、どうしても都合で参加出来ないということで、これちょっと提案したかったことがあるけど、私の方から言うておいてほしいということで承ってまして、ちょうどわっくカフェのある、この前の生垣のあるこちら辺りなんですけれども、プランター等で花植えしてはどうかという提案なんですけれども、もちろん季節や時間、ルールを定めて、地域の親子で種から植えて、例えば夏場でしたらひまわりを植えて、一緒に成長を楽しみがてら、銀座街やわっく周辺を訪れる仕組みをつくっていくということなんですけれども、当然まだどういった団体がどういった仕組みでするかということも決まっていませんし、木全さん自身は銀座街商店会の会長もされていますので、商店会を中心に水やりしたり管理したりする体制がつくれるよってことを仰ってるんですけども、具体的に地域でそういった話が起こって、出来そうだということになっても、ここはURさんの場所ということもあって、どういった仕組み

で借りられるのかとかいうことも、まだまだ未定なことなんですけども、木全さんの思いとして、こういったことをぜひ実現したいということをお場で報告したいと仰ってましたので、今日は共有のみになりますけども、また地域の声として具体的にこんなことがしたいということが出て来た時には、関係皆様の方で、いろんな調整、協力いただければなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(増田会長)

ありがとうございます。2点ご報告いただきましたけど、いかがでしょう。

(溝口委員)

木全さんの話では、銀座商店街でやる、或いは206棟、207棟の住民が参加するとか、いろんな方法がありますけどこれはもう、実現は十分可能です。

全国で、URさんとの連携で、そういう花壇づくりというのをやって、またコンクールもやったりもしてますんで、具体的な話、また木全さんとしていけば良いかなと思ってます。

(増田会長)

はい、分かりました。ありがとうございます。

(中井副会長)

今の話と同じなんですけども、プランターを置いて花壇にしようという話は私どもの中でも出てまして、その時に合わせて今、ボックスのオーナーさんで店をやっている訳ですが、その人たちに来店してもらったら良いんじゃないかという話を我々の中でも進めてますので、誰が管理するのかといえば、私たちでも出来るし、商店街でもやれるだろうし、住民さんが参加しても出来るだろうと思うので、まずそういうことをここでイベントの部会の考え方としてやってくださいということであれば、それで良いかなと思うので、イベントの部会の方で提案していただけたらどうかなと思います。

(増田会長)

はい。花壇なんか、ひょっとしたらプランターのコンクールというんですかね。富田林の市内で結構緑化活動を高度にされている団体が何個かありますから、そういうところからも来店していただけるようなコンクール方式というのか、公募方式というのか、何かそんなかたちをやれば良いんじゃないかな。

それともう1点は、気を付けていただきたいのは、花を植えたら毎日ほど花がらを摘まないで、花は長持ちしないし、かえって汚くなっている緑化というのはいっぱいあるんですね。やっぱりちゃんと毎日花がらを摘むということをちゃんと踏まえながら緑化をしてもらわないと、プランターだけがゴミのごとくなってる緑化スペースいっぱいありますから。その辺はやっぱり管理が出来るという条件の中で展開をしていただくというのは大事かなと思いますけどね。

(増田会長)

何か溝口さんどうぞ。

(溝口委員)

いや、URさんのほうで。

(馬來委員)

UR都市機構の馬來と申します、よろしくお願ひいたします。

今お話しいただいた、わつくカフェさんの前の所の花壇ですかね。具体的にですね、どういったかたちで進めていくかとかってところがまた決まってきましたら、我々の方でも前向きに検討していきたいと思ひますので、ぜひ今後また引き続き、お話をさせていただけたらと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

(増田会長)

もう1点私はスマートシティの方で、少し無人の野菜の卸売とかキッチンカーというのは、これ今苦勞されて今までマルシェをやっきていただひいて、このマルシェとの連携ですね、或いは協力とかいう、そうでないと何か今までやってきたことの足を引っ張るような状態にならないように、ちゃんと連携していただきたいと。

特にこういう野菜を出荷出来るグループというのは、まだまだ市内の農家の中では限定されていますから、その産地形成みたいなのと一体的にならないといけないので、そこで何か取り合いみたいなにならないように、ぜひとも連携していただきたいなというふうに、極端なことを言えば、有人のマルシェが月2回だったら、極端なことを言うと、ピックアップステーションみたいなところで、無人の販売所みたいなやつが、もう週2回されてると、月2回ぐらいのマルシェが開催されてるようになってくると。週1回ぐらい開催すると、日常の買い物をかなり補完出来るんですね。

月1回だと、イベント的にならざるを得ない。週1回だと日常買い物をかなりサポートするようなマルシェになっていきますので、何かその辺りも少し上手い連携のあり方をぜひとも、考えていただひいて、お互いに盛り上がっていくとか、お互いに連携出来ること。そうじゃないと、足のひっぱり合いにならないように、ぜひお願ひしたいなと思ひます。

(事務局：坂口)

ありがとうございます。留意します。

(増田会長)

はい、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

少し後半急いだようなかたちになりましたけれども、一応予定しておりました3時を少し回ったということですが、この際、何かご発言ございましたらいかがですか。

色々な意味で、この推進協議会はある意味まちづくり会議をサポートしていったり、そこでの課題を解決していく場というんですかね、ここで何かを決定していくというよりも、むしろ出て来た

課題に対して知恵を出し合いながら解決方法を探る会議ということで、これも一つの車輪、歯車ですので、お互いに上手く連携出来るようなかたちで、推進協議会も会議出来ればと思います。

いかがでしょう、よろしいでしょうかね。小野先生何かございます。

(小野委員)

ないです。

(増田会長)

大丈夫ですか、副会長いかがですか、大丈夫ですか。

よろしいでしょうかね。そしたら、少し時間が伸びましたけれども、予定しておりました議題がすべて終わったかと思えます。今日は後から見学会もあるということですので、よろしくお願ひしたいと思えます。

ご協力ありがとうございました。事務局に進行をお返しします。

(事務局：坂口)

はい。皆さんありがとうございました。

それから令和2年度、1年間色々ご協力ありがとうございました。

この協議会の方ですね、来年度も継続して年数回開催していきたいと思えますので、ちょっと色々なハード面での議論とかも含まれてくるかと思えますが、様々な調整させていただきながら施策の方進めて参りたいと思えますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

この後ですね、2つの拠点が出来たということで、見学会の方させていただきたいと思えます。増田先生すいません4時から会議でもう帰られるんですけども、皆さん我々会場ちょっと片付けしてる間、この連絡所のちょうど北側にインフィニットコンルームがありますので、そちらの方でちょっと見学をしながらお待ちいただいて、あとわっくカフェの方も今日は月曜日でお休みなのですが、急遽鍵だけは開けて、もしタイミングが合えば、コーヒーもよばられるということでちょっと手の問題で、無ければ申し訳ないんですが、あればわっくさんへの運営協力ということで、1杯ずつ注文いただければありがたいと思えますので、これから拠点とわっく、その後適宜解散ということで、もうしばらくよろしくお願ひいたします。

どうも本日はありがとうございました。

以上